

資料 5 植物に関する用語集

1. 本文中に記載された植物に関する用語の解説 (50 音順)

資料 5 植物に関する用語集

1. 本文中に記載された植物に関する用語の解説 (50 音順)

【ア行】

一年草 (いちねんそう)

生育に適さない時期を種子で過ごし、種子から発芽後 1 年以内に、生長、開花、結実をし、枯れる草本。

栄養繁殖 (えいようはんしよく)

種子や胚を経由せず、根・茎等の栄養器官から繁殖する無性生殖のうち、孢子生殖および無融合生殖以外のもの。つくられる個体は親個体と同一の遺伝型を持つクローンである。

【カ行】

花序 (かじょ)

枝上における花の配列方式

夏緑高木 (かりよくこうぼく)

夏に茂っている葉が冬に落葉する樹のうち、高木の植物

休眠 (きゅうみん)

生物の生活史において成長や活動が一時的に停止した状態。

(種子の休眠、動物の冬眠・夏眠など)

結実 (けつじつ)

植物が実を結ぶこと

互生 (ごせい)

葉の 1 節に 1 個の葉がつくつき方

【サ行】

雌雄同株 (しゆうどうしゆ)

種子植物のうち、雌花と雄花とが同一の個体に生じるもの。

なお、別の個体に生じるものは「雌雄異株」という

小穂 (しょうすい)

イネ科やカヤツリグサ科の花 (小花) が 1 個又は 2 個以上集まった小さな花序

この小穂が集まって、種ごとに異なる花序を形成する

植生遷移（しよくせいせんい）

時間とともに植物群落を構成する種や個体数が移り変わっていくこと。

シンクパッチ

ある程度の広い範囲内での個体の移動によって相互に関係しあっている局所個体群の集まりのことをメタ個体群という。パッチとは、局所個体群が生息する他のパッチとは生息不適地によって区分される連続的な空間の範囲であり、ソースとシンクに分けられる。ソースパッチは、個体数が多く、高密度で、個体の局所的死亡率を局所的出生率が上回り、個体の供給源となっており、シンクパッチは、個体数は少なく、低密度で、個体の局所的死亡率が局所的出生率を上回り、個体の吸収源になっている。ソースパッチの余剰個体がシンクパッチへと移動することでメタ個体群は存続する。

生育（せいいく）

植物が伸長して大きくなること。

生活史（せいかつし）

生物個体あるいは個体群の一生の過程（出生から生長、繁殖、死亡の時期等）。

生物相（せいぶつそう）

一定の地域内に生息・生育する生物の種類構成。

生物の多様性（せいぶつのだようせい）

すべての生物（陸上生態系、海洋その他の水界生態系、これらが複合した生態系その他生息又は生育の場のいかなを問わない。）の間の変異性をいうものとし、種内の多様性、種間の多様性及び生態系の多様性を含む。

出典：「生物多様性条約」(環境省生物多様性センター, http://www.biodic.go.jp/biolaw/jo_hon.html)

(平成 30 年 1 月 16 日参照)

ソースパッチ → シンクパッチを参照

【夕行】

対生（たいせい）

葉の 1 節に 2 個の葉がつくつき方

多年草（たねんそう）

2 年以上個体が生存し、成熟後は通常 2 回以上、原則として毎年開花・結実する草本。

地下茎（ちかけい）

地表面より下にある茎の総称

地下茎のうち特殊な茎以外のものを根茎（こんけい）という。根と違い、葉や葉痕を残すため、区別できる。

定着（ていちゃく）

ある種類の生物が新しい生息地で、継続的に生存可能な子孫をつくることに成功する過程のこと。

導入（どうにゅう）

他地域から本来その生物あるいは種が生育していない地域にそれらの生物あるいは種を持ち込む行為で、意図的導入と非意図的導入がある。

土性（どせい）

砂（粗砂、細砂）、シルト、粘土の各成分の含まれる割合によって示される土壌の性質の一つ。本解説書（案）では対象の外来植物の好む土壌特性の要素として使用している。

現場では土壌を指で触った感触から判別する手法が広く用いられる。

図 土性の分類

土性	日本農学会法による粘土含量による分類
砂土	粘土含量 12.4%以下
砂壤土	粘土含量 12.5～24.9%
壤土	粘土含量 25.0～37.4%
埴壤土	粘土含量 37.5～49.9%
埴土	粘土含量 50.0%以上

（風乾細土試料に対する粘土含量（%））

【ハ行】

播種（はしゅ）

種を播くこと

萌芽（ほうが）

芽を出すこと

【マ行】

実生（みしょう）

種子から発芽した植物で、子葉または第1葉をつけた幼植物を指すことが多い。

【ラ行】

ロゼット（ろぜっと）

根生葉（地下茎の基部の節につく葉）のうち、冬でも枯死しない葉の集合体。放射状に重なり合っつき、地表に密着して越冬する。

【引用・参考文献】資料編 5

- 1) E I C ネット[環境用語集] (<http://www.eic.or.jp/ecoterm/?gmenu=1>)
(参照：平成 30 年 1 月 16 日)
- 2) 巖佐庸ほか編 (2003) 生態学辞典, 共立出版株式会社, 682pp.
- 3) 巖佐庸ほか編 (2013) 岩波 生物学辞典 第 5 版, 岩波書店, 2192pp.
- 4) M.G.Turner et al. (2001) 中越信和・原慶太郎監訳 (2004) 景観生態学：生態学からの新しい景観理論とその応用, 株式会社文一総合出版, 399pp.
- 5) 清水建美 (2001) 図説 植物用語辞典, (株) 八坂書房, 323pp.